

奈弓連だより

通巻 220号

令和2年6月号
発行 奈良県弓道連盟
会長 西中 正
編集担当 松澤和実 山本悦子
連絡先：henshu@narakyudo.jp

全日本弓道連盟 公認資格認定制度 地方委員の有効期限の延長について

全日本弓道連盟 公認資格認定制度 地方委員の有効期限の延長について、以下の連絡がありましたのでお知らせいたします。

公認資格認定制度地方委員について、平成30年度(2018年4月施行)に地方委員資格を取得された方におかれては、令和2年度末(2021年3月31日)に有効期限をむかえますが、この度の新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、各地連では行事を自粛いただいております。今後も実質的には更新講習会等の開催は難しいと状況と考えております。つきましては、今年度に限り特例措置として、地方委員資格の有効期限を令和3年度末(2022年3月31日)まで1年間延長といたします。(総務部 藤岡順)

公認資格期限延長により、講習会を中止します。

全日本弓道連盟から「公認資格認定制度地方委員資格」の有効期限が2022年3月31日まで1年間延長される旨の通達がありました。そのため、予定しておりました、下記講習会につきましては、開催中止とさせていただきます。

- ・6/27(土) 四・五段向け講習会&公認資格取得講習会
- ・6/28(日) 称号者向け講習会&公認資格取得講習会
- ・7/4(土) 学校指導者向け講習会

弓道コーチ1(旧名称:スポーツ指導員)資格の維持は各自でお願いします。

今回資格が延長されるのは、全日本弓道連盟が認定する「公認資格認定制度 地方委員資格」になります。日本スポーツ協会(旧名称:日本体育協会)が定める、弓道コーチ1(旧名称:スポーツ指導員)資格につきましては、延長の処置はありません。

全弓連が認める公認資格は、この「弓道コーチ1」

を取得していることが前提条件になります。弓道コーチ1の有効期限につきましては、取得年により、個人で違っております。個人の資格の維持状況を確認する方法がありませんので、各自で確認をお願い致します。(指導部 吉本清巳)

第10回全日本弓道選手権大会奈良県予選会 男子:吉本清巳選手(布目)、女子:東中千佳選手(檀原)が最高得点賞

6月14日(日)ならでん弓道場において、第10回全日本弓道選手権大会奈良県予選会が男子15名女子17名の参加にて開催されました。コロナの影響で予選会開催は1ヶ月近く遅れ、9月の全日本弓道選手権大会は中止となりましたが、

「状況が好転した場合につき、実施可能と判断でき得る状態になれば、10月以降に開催することもあり得る」という全弓連の告知があり、今回の奈良県予選会が開催されることとなりました。競技は近的4射(一手2回)の点数と的中による予選通過者により近的6射の的中により争われました。

また、開催にあたっては来場時に氏名や体温・症状などの記入、アルコール消毒、手洗いの徹底、控えでのマスク着用、三密を避けるための人数制限などの県連活動再開の留意点に十分配慮し大会を運営致しました。

結果は次の通りです。

最高得点賞

男子 吉本 清巳 教士七段 (布目)
女子 東中 千佳 錬士六段 (檀原)

成年男子の部

1位 藤岡 順 教士七段 (香芝)
2位 小林 保彦 錬士六段 (奈良)
3位 山口 亮二 五段 (生駒)

成年女子の部

1位 東中 千佳 錬士六段 (檀原)
2位 長濱 有美 錬士五段 (檀原)
3位 八木 純子 五段 (錬弓会)

全日本弓道選手権大会出場選手選考結果

男子 吉本 清巳 教士七段 (布目)
藤岡 順 教士七段 (香芝)
(補欠 佐藤 峻 錬士六段 郡山)
女子 東中 千佳 錬士六段 (檀原)
長濱 有美 錬士五段 (檀原)
(補欠 八木 純子 五段 錬弓会)



後列左から山口、小林、藤岡、吉本
前列左から長濱、東中、八木 の各上位入賞選手

試合後の講評で西中会長より「失」についてのお話がありました。失は弓矢を落とす事だけではなく、見る側が不快な思いをすることも失ではないかと言うお話から3点の例を挙げられました。①矢番えの時の表情、引分けの時顔や口が動く。②はじめから膝を生かす気がないように見える人がいて、その場で休憩してしまっているようだ。③大三から引分けに入るとき三重十文字が崩れる人が多い。早く両肩の線を修正して三重十文字にする事が望ましい。との事でした。

(競技部 西田ゆり)

全弓連から会報が発行されました。

全弓連に会員登録をしている方々を対象に、運営に関する事柄や今後への取り組み、委員会活動の報告など、ホームページのような不特定多数の方向けではない、会員向けの情報が発信されます。

会員IDを登録(無料)するとお知らせメールが届き、会員専用閲覧ページで閲覧できます。

https://www.kyudo.jp/member_materials/kaihou_mail.html



奈良県の支部、団体紹介

生駒支部の成り立ちと今

生駒支部 西野 禎一

生駒支部は、生駒市体育協会の競技団体として稽古しています。現在、道場は十分な設備ではないため、安全を考慮して一般開放はせず、協会会員のみの使用となっています。連盟登録者は、約40名です。

設立の沿革は、次の通りです。

1999年4月 生駒市体育協会に加盟

1999年5月 市民体育大会弓道競技第一回を北大和(現、奈良北)高校にて開催

2003年4月 第一期弓道教室開講

2012年3月 練習場開場

2013年4月 県連盟生駒支部となる

協会の設立には、奈良支部の新司先生、深田先生の御尽力を頂き、練習場の開場まで弓道教室も御指導頂きました。それまでは、むかいやま体育館で巻藁を使用していた教室で、8回の教室終了後は奈良市弓道場にお邪魔して続けさせて頂きました。

2005年からは、奈良北高校の御厚意で土曜日の午前に稽古できるようになりました。しかし、週に一度の稽古でした。2012年に練習場が出来てからは、当初は土・日、その後会員の増加に伴って使える日を増やし、現在、原則週4日を稽古日としています。

練習場には観覧場所がないので、市民体育大会は、現在も奈良北高校をお借りしています。何とか、競技会のできる道場が欲しいと切望しています。

そんな現状なので、体配があまり稽古できておらず、競技会で注意を頂くこともしばしばです。射技についても、称号者が少なく、未熟な面が目立つと思います。しかし、会員が増えるにつれて、支部の講習会や射会回数を増やし、体配や競技のマナーの向上を図っています。連盟行事にも積極的に参加していきますので、今後とも宜しくお願いします。

大和郡山市弓道協会の歩みと今

郡山支部 斎藤 文男

現協会の前身である「郡山弓道協会」は昭和 25 年 7 月に発足した奈良県弓道連盟に続き、翌 26 年、郡山町体育協会の設立と同時に発足しました。

平成 12 年 5 月、翌 13 年 6 月に武道場・弓道場が新設・オープンすることを機に、新体制の組織で「大和郡山市弓道協会」の活動を開始しました。

本年、令和 2 年度は新体制での活動のスタートを切ってから 20 周年を迎えました。

【活動】

■普段の練習や例会においても班別研修を取り入れ、段位別に班編成をすることで、上位者からの指導を受けるばかりでなく、同レベルの目線による指摘しやすい雰囲気を作っており、お互いの射技・体配をチェックしあう、という方法によって会員のレベルアップを図っています。年間の活動として、例会、競技練習会をそれぞれ数回実施していますが、協会員が楽しみにしている行事は何と言っても「お城まつり弓道大会」そして「宿泊研修」「郡山弓道大会」「新年会」でしょう。

★お城まつり弓道大会



この大会は他支部の会員の方々を交えた競技で、県の大会に参加することの少ない多くの会員にとっては、たくさんの素晴らしい射技・体配を勉強できるまたとない機会となっています。

今年の大会中止残念無念！

★宿泊研修



三重県松阪市の弓道場をお借りしての宿泊研修は、ビデオを見ながら夜遅くまで、初心者から高段者まで和気あいあいと、それでいてきびしい目でそれぞれ良い点・悪い点を指摘しあう、普段経験できないことがたくさんある練習会です。9月にはコロナが収まっていることを願うばかりです。

★郡山弓道大会、新年会

毎年担当役員が趣向を凝らして行うこの大会は、真剣な競技のなかにも笑みのあふれる楽しいものとなっています。

■現在会員数 70 名程度、徐々に減りつつある会員数をいかに増やすか、悩ましいところでもあります。新型コロナウイルスの影響で郡山弓道場も 4 月初旬から 5 月末まで閉鎖され、活動はすべて中止となりました。道場（特に安土）整備のための入場は特別に認めてもらって有志で整備を続けており、良い状態を保つことができました。6 月 1 日からは閉鎖は解かれましたが、道場内に入れる人数は 9 名以下に制限され、どのように練習を実施するのがよいか知恵を絞っているところです。郡山協会独自の感染防止マニュアルも作成し、協会員から絶対に感染者を出さないという決意のもと、会員のレベルアップを目指して少しずつ活動を増やしていきたいと思えます。県連の皆様には、今後とも当協会の発展にご指導とご協力をよろしくお願ひします。

歳時記

「七月」 七夕

七月は文月と云い、七夕で知られるように、歌や書道と結び付けて考えられています。本来は書物の虫干しの月です。七夕は牽牛、織女の二星にことよせて、一年のうちにこの日だけ出会えると言う伝承をもとに、機織り（はたおり）の巧みさを望んで祭ったものです。空に映える天の川的美しさが味わえるのも旧暦でのことで、新暦によって次第に失われていく行事になりました。反面、仏教上の行事である盂蘭盆会（うらぼんえ）は年々盛んになって、盆と正月と言われる程、定着したものになりました。盂蘭盆は梵語（ぼんご）のウラボーナと云う語からの言葉で、正しくは倒懸（とうけん）と訳します。死者の霊が、悪処におちて倒（さかさ）まの苦しみを受けるという故事伝承に基づいています。飲食を供えて霊の苦しみを救うことを願う意味があります。今日では、有縁、無縁にかかわらず、七月十五日がこの供養の日になりました。

インドから中国を経て、日本では奈良時代から行われていますが、今日のように定着したのは、この供養が祖先崇拜と結びついて祖先の供養の日となったためです。したがって倒懸という意味は今では全くななくなっています。お盆は七月十五日を中日にして、十三日の夜に門口に麻幹（おがら）をたいて精霊（しょうりょう）を迎えます。これが迎え火で、祖先の御精霊さまを迎えるのです。家に精霊棚を設けるか、仏壇に枝豆、瓜、なす、はす、根いもなどを供えて、麻幹の箸を添えます。そして僧侶を招いて棚経をあげます。十五日に墓参りをします。墓地を清掃し、墓に水をあげ、花を供えて簡香をたきます。明けて十六日に門口で麻幹をたき、迎え入れて供養した精霊をお送りします。これが送り火で、京都の大文字焼きもこれをなぞらえたもの。盆行事の終わった夜、供養に供えた野菜、果物などをのせた藁の舟に、灯りを燈して川に流します。この灯籠流しもゆかしい風情のある行事です。

「小笠原流マナー」著者小笠原清信グラフ社発行より
中埜大学藤原孝澄(中埜広樹)

(2008年5月号に掲載された記事を再掲)

量る、測る、計る？



弓肥とはなんでしょう？

現代弓道小辞典では、「弓の握り、ゆづか（弓へんに付）とあって、「押手にて弓を支える部分のことをいう」とあります。「肥」は、「弦と弓との距離感覚。ゆづかと中関の間。弓肥という」とあります。

今回は、「弓と弦の間」を計ってみましょう。

肥の高さは、15 cmほどが良いとされています。他に弦の高さを気にするのは、関板の所ですね。

弓や選ぶ弦によって違うこともあります。

あなたの弓と弦の間は、何ミリがベストですか？

握りと弦の間

cm

関板と弦の間

mm

矢番いのかね「弓の上下張力により異なる」手下強弱により、五分下げたり上げたり、とあります。

矢を番える場所、弓ごとに計っておきたいですね。

長さを計り、巻き藁矢に印をつけて常に場所を確認している方もいます。

矢番えの位置

本弭（床）から

cm

編 | 集 | 後 | 記

全日本弓道大会の予選会(本大会の開催未定)が行われて、やっと令和2年度が始まったように感じます。密に注意しながらの新しい生活が始まりました。久しぶりの競技会終了後、西中会長から3点についてのお話。気が引き締まる思いでした。確かに跪座によって凜とした姿勢になります。口元の動きも三重十文字の事も、今引いている人の立ち姿を連想させる言葉でした。

(編集担当 松澤和美)